科目名	論理的思考Ａ（歴史の論理）　Logical Thinking A: Logics in History						
科目担当者	吉田 成哉　YOSHIDA Seiya						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［総合教育科目　総合講座］ 経営学部・経営学科［総合教育科目　総合講座］					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	欧米の主要国の近現代史を基軸に、ケーススタディの形で概説します。主要国の歴史的変遷を分野別（政治・文化・経済）に大きな流れを捉えていきます。各国の地誌・政治体制・経済状況・文化的背景を踏まえ、基本事項を身につけることで、社会人としての素養を培っていきましょう。 また、講義の中では、多面的な視点から歴史的資料・文献を提示し、論理的思考力を育てていきます。						
授業の到達目標	① 歴史的に最も基礎的な重要事項について学び、その背景となる事象（思想・言語・社会・哲学）を論理的に主体的に考察することのできる力を養います。 ② 近現代史を教訓としながら、これからの国際社会はどうあるべきか、私たちはこれからどう行動することが望ましいのか、論理的に主体的に考える見識を培うことを到達目標とします。						

授業計画・内容

1	アメリカ①　位置と自然的基礎・地域名と地域性・独立・政治体制・人種問題・奴隷貿易・イギリスの統治
2	アメリカ②　第二次世界大戦・東西冷戦・ベトナム戦争・デタント・地域ブロック
3	アメリカ③　第二次世界大戦以降の金融・貿易の変遷（農業・鉱業・工業・エレクトロニクス産業）
4	中国①　位置と自然的基礎・地域名と地域性・王朝史・社会主義・日本との関係・経済開放
5	中国②　経済開放政策以降の政治体制の変遷
6	ロシア①　位置と自然的基礎・地域名と地域性・社会主義革命・計画経済・連邦崩壊
7	ロシア②　資源とナショナリズム・ペレストロイカ・グラスノスチ
8	イギリス①　位置と自然的基礎・地域名と地域性・イギリス革命・民主主義の変遷
9	イギリス②　植民地経営・産業革命・帝国主義・世界大戦・北アイルランド・EU 離脱
10	ドイツ①　位置と自然的基礎・地域名と地域性・神聖ローマ帝国・ハンザ同盟
11	ドイツ②　ハプスブルグとプロイセン・ファシズム・東西冷戦・東西ドイツ統一・EU の中のドイツ
12	パレスチナ問題の変遷・イスラエルと西アジア・中東戦争
13	旧ユーゴスラビア紛争の変遷・ボスニア紛争・宗教対立
14	ナイジェリア　位置と自然的基礎・地域名と地域性・部族対立・油田開発・資源ナショナリズム
15	まとめ（各国史のキーワードを振り返る）

授業外学修（事前学修）

事前に配付されたレジュメを読んでおいてください。（毎週 2 時間程度）
先行研究については、適宜、紹介します。

授業外学修（事後学修）

Moodle 上に、講義終了後、毎回、「講義概要」を掲載します。板書事項を含め、補足説明を記載しています。それをベースに復習・講義の要点をまとめてください。（毎週 2 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応

成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
定期試験	70%	①、②
授業中のレポート課題（2 回）	30%	①、②

成績評価基準

秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合
優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合
良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合
可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合
不可：（評点 60 点ていきし未満）到達目標に達していない場合

教科書

レジュメを適宜配付します。

参考文献

適宜、指示します。

その他